

平成24年度教育事業

「東北地区学校教育に活かす体験学習指導者講習会（2月開催）」

事業報告書

1 趣旨

体験活動の手法や考え方について体験を通して学び、集団の中で望ましい人間関係づくりや個人の自己肯定感を高めるための指導技術を身につける。

2 主催

独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立花山青少年自然の家

3 協力

(株)プロジェクトアドベンチャージャパン
みやぎアドベンチャープログラム(MAP)研究会

4 後援

青森県教育委員会、岩手県教育委員会、宮城県教育委員会、
秋田県教育委員会、山形県教育委員会、福島県教育委員会

5 期日

平成25年2月23日(土)～2月24日(日) [1泊2日]

7 参加対象と人数

学校教育関係者、青少年教育関係者、NPO法人関係職員、学生、その他興味をお持ちの方 30名

8 参加状況

	宮城県		岩手県		山形県		福島県		計
	男	女	男	女	男	女	男	女	
学校教育関係者	8	2	1	0	1	0	0	0	12
青少年教育関係者	2	1	0	0	0	0	1	0	4
学生	0	2	0	0	0	0	0	0	2
その他	3	0	0	0	0	0	0	0	3
計	13	5	1	0	1	0	1	0	21
	18		1		1		1		

※前回(6月開催)に参加し、今回も参加の方・・・7名

※昨年度(2月開催)に参加し、今年度も参加の方・・・3名

9 日程

	2月23日(土)	2月24日(日)
午前	◇受付 9:30(事務室側玄関ホール) ◇開講式 10:00(プレイホール) ◇実習1 10:20~12:00(プレイホール) 「体験学習法の目的と考え方」 (株)プロジェクトアドベンチャージャパン トレーナー 高野 哲郎 氏 MAP研究会 安達 章美 氏 遠藤 安孝 氏 菅原 綾 氏	◇実習3 9:00~12:00(プレイホール) 「学級や学びの場をつくる活動の実際」 (株)プロジェクトアドベンチャージャパン トレーナー 高野 哲郎 氏 MAP研究会 安達 章美 氏 遠藤 安孝 氏 菅原 綾 氏
午後	◇実習2 13:00~17:30 (プレイホール・大研修室) 「体験学習法の効果を体感する」 (株)プロジェクトアドベンチャージャパン トレーナー 高野 哲郎 氏 MAP研究会 安達 章美 氏 遠藤 安孝 氏 菅原 綾 氏	◇演習 13:00~15:30(大研修室) 「理論と実践をつなぐプランニング」 (株)プロジェクトアドベンチャージャパン トレーナー 高野 哲郎 氏 MAP研究会 安達 章美 氏 遠藤 安孝 氏 菅原 綾 氏 ◇まとめ 15:30~15:40(大研修室) ◇閉講式 15:40~15:50(大研修室)
夜	◇講義・演習 19:00~21:00(大研修室) 「学校教育における体験学習の意義」 (株)プロジェクトアドベンチャージャパン トレーナー 高野 哲郎 氏 MAP研究会 安達 章美 氏 遠藤 安孝 氏 菅原 綾 氏	

10 実施状況

【2月23日(土)】

◇実習1「体験学習法の目的と考え方」

新規事業として3年目にして、初めて年間2回の開催とし、1回目(6月開催)は「体験学習法を体験する」ことを目的とし、2回目(2月開催)は「ファシリテーションを学ぶ」ことを目的とした応用編と位置づけて実施した。

参加者は学校教育関係者が半数を占め、体験学習法を学校教育に活かすことを目的とした方が多く、ファシリテーションについて学ぶことを求めているが、本事業の特性である「参加者がつくりあげる集団(人間関係)での学び」のベースをつくるため、1日目の大半を体験と理論の理解にあてた。

午前中は、①PAの概要(CBCとアドベンチャー、ELC、FVC)、②体験学習の特徴(自らの気づき、主体的に学ぶ、プロセスから学ぶ、(グループで)お互いに学び合うなど)、③体験学習サイクルについて、体験から学ぶ活動を行った。

また、本事業1日目を学校生活の流れに見立て、午前を学級開き、午後を学校行事や日々の授業（教科・学級活動・道徳など）の実践で構成した。さらに、活動プログラムで取り上げるアクティビティは、学校や教室でできるものをベースに選択し、本事業のテキストである『クラスの絆が深まる楽しい活動集』（みやぎアドベンチャープログラム研究会編著、学事出版）に掲載されたものを中心に検討した。



初めて出会う参加者同士のコミュニケーション
（ジャンけんEXILE）



教室でできるアクティビティを中心に（キャッチ!）

◇実習2「体験学習法の効果を体感する」

午後は、一般的に小学校5年生や中学校1年生で実施する「集団宿泊学習（合宿）」を題材に、体験学習法の効果をねらったプログラムを体験した。

学校行事や総合的な学習の時間、教科学習の時間で実施される集団宿泊学習を、目的やねらいを明確にし、その効果を高めるための方法として、体験学習法を活用することが有効であることを体感してもらうことができた。また、体験と「ふりかえり」をタイミングよく実施することで、次の活動へ有益なフィードバックになることも理解できた。

【アクティビティリスト】

【学級開きのイメージで】

- じゃんけん系
 - ・じゃんけんマッサージ
 - ・じゃんけん列車
 - ・じゃんけんEXILE
- パチパチインパルス
- キャッチ
- 前後左右
- ストップ&ゴー
- 呼ばれたい名前
- ネームトス
- 他己紹介
(ネーム・所属・動物・趣味)
- ビート

【アクティビティリスト】

【花山合宿へ ～Let's go to HANAYAMA Adventure!～】

- ストレッチ
 - ・ベアストレッチ
 - ・ミラーストレッチ
 - ・ウインドミルストレッチ
- タグ系
 - ・みんなおに
 - ・バナナおに
- 木の中のリス
- 巨人・魔女・妖精
- エンブレム紹介
～同じ血液型でシェア～
- カテゴリ（1～5で集まれ）
- HAB（花山アドベンチャー）
スペシャルメドレーリレー
魔法のじゅうたん ～ マシュ
マロラインナップ ～ ニトロク
ロッシング ～ ～ ふりかえり
～ Being



自然の家での「集団宿泊学習」(沢登り)を想定した課題解決活動(マシュマロラインナップ(左)、ニトロクロッシング(右))

その後、場所を大研修室に移動して、日常の学校生活に戻った想定で、体験学習法を活用した教室での授業実践を体験した。二つの実践には、他者とのかかわりによって自身の学びを深めることや自分だけでは気づかないよさに気づかせてもらうことが共通しており、互恵的協力関係のもと目標達成のために活発な相互交流が図られる手法が取り入れられている。

参加者からは「日常の具体的な実践を体験でき、自分の授業にも活用してみたい」という声があがった。

【アクティビティリスト】
 【合宿から戻り、学校Ver】
 ○「協同学習」の技法を使った社会科の授業
 ・情報化した社会とわたしたちの暮らし(小学校5年)
 ○MAP的手法を取り入れた「総合的な学習の時間」
 ・あなたの知らない自分?!



上段：2つの授業実践の様子(左：全員での情報の共有、右：全員に渡すカードの作成)
 下段：授業のふりかえり(左：付け足されたビーイング、右：活用して全員で話し合う)



◇講義・演習「学校教育における体験学習の意義」

夜は、これまでの体験を整理して、理論と実践をつなぐ時間と位置づけ、翌日に行う「プランニング」にむけた具体的なイメージをもてる内容とした。



【アクティビティリスト】

- ペアじゃんけん開脚
- ウエスタンチャレンジ
 - ・足し算 ver.
 - ・二丁拳銃掛け算 ver.
- Hi 5, Hi 10, イエイ×2, EXILE
- ガーディアンエンジェル
 - ・ボディガード ver.
 - ・スナイパー ver.
- 「あなたの知らない自分?!」のふりかえり
- 体験学習サイクル
- 午後の授業の種明かし
- なぜ「体験」を学びに使うの?

○「午後の授業の種明かし」より

①MAP研究会

- ・人間関係づくりから授業に活かす（日常に活かす）
- ・「活動に意味づけをして、学級の力を高める」

②「花山ぼうけん合宿」の種明かし

- ・一緒につくりあげるクラスのために「Being」

③「あなたの知らない自分」の種明かし

- ・自尊感情、自己肯定感を高めることを目標に。 ・人間は「感情」・「行動」・「思考」によって成長する。
- ・「ふりかえり」に力を入れる。 ・言葉をひろいあげてフィードバックする

④「協同学習」の種明かし

- ・PAと目指すところの合致点が多い。 ・つないでいけるもの「Being」
- ・自分が大切にしているもの「コア」→自分の実践をふりかえってみる（省察）→だからプランニングしよう！

【2月24日（日）】

◇実習3「学級や学びの場をつくる活動の実際」

2日目は、再び体験学習の場において、集団づくりや日常のコミュニケーションでどのようなシチュエーションが起こるのかを体験してもらった。

また、学びの手順を①目標の確認（ビーイング活用）、②集団づくりの活動、③ふりかえりの実践とし、自身で体験学習サイクルを回し、そこで一般化されたことを活かして、自分の実施計画を考える作業にふみだしてもらった。これにより、参加者モードでの活動から指導者（ファシリテーター）側に軸足をシフトし、プランニングに向かう体制をつくった。

【アクティビティリスト】

- ボディチェック
 - ・からだチェック
 - ・こころチェック
 - ・エンブレム達成度チェック
- 数集まり“せ〜の”
 - ・トークテーマ「自分の目標」
- Q&A「ファシリテーションとは?」
- パワーセイバー
- ハンドシェイク（魂の握手）
- 鏡合わせで1〜20
- 背中に指当て
- ミラーストレッチ
- 山チーム・海チーム
- Look Up・Look Down
- ハ・ヨ・ヨイショ!
- 人間知恵の輪
- あやとり（チーム対抗 ver.）



目標達成にひとつになって（山チーム）



違ったやり方でチャレンジ（海チーム）



最後の挑戦（パイプライン）

【アクティビティリスト】

- 頭星人・おなか星人・脚星人
- ワーブスピード
（2チームで一つの目標を達成しよう！）
- フィードバックタイム
（ペンとふせんで）
- Cゾーンアンケート
～ 休憩 ～
- Beingの確認
- パイプライン（全員のボール）
- フルバリューカード
- バンバン×3 ～
「ワンダフル・ニヤイス！」

◇演習「理論と実践をつなぐプランニング」

最後に各自のフィールドでの教育実践のプランニング（アクションシートの作成）をし、これまで体験をともにした仲間と共有とフィードバックを行った。



全活動終了後のビーイング

【アクティビティリスト】

- ふりかえり
（フルバリューカードを使って）
- Being
- プランニングのイメージ
- プランニング作業
- グループ化でシェア
（同じ背景の人、似た内容など）
- 2日間のふりかえり



プランニングについて説明する高野講師



仲間とともに「想いをカタチに」

11 成果と課題

【成果】

- ・本自然の家が効果的な学びの手法として実践と効果の検証を行っている「体験学習」について、プロジェクトアドベンチャー・ジャパンとMAP研究会から講師を招聘し、それぞれの実践を基に連携を深め、事業のねらいやプログラムの検討から協力して企画を行うことができた。
- ・今年度は特に「学校教育に活かす」ことを事業構成の重点に据え、体験からの学びを学校教育活動全般に活用できる実践を紹介したり、実際に活用している授業を体験したりする講義・実習を設定することができた。
- ・2回目（2月開催）の事業広報として県内各市町村教育委員会に御協力をいただき、各学校への配布の際に、研究主任や初任者研修担当教員の先生方宛の文書を作成し、若手の先生方に学級の間関係づくりや魅力ある授業づくりを学ぶ機会として、紹介してもらった体制をつくった。
- ・参加者は個々に目的をもって参加していただいているが、2回目（2月開催）の調査では、目的の達成度は以下のようになり、好評を得ることができた。

[Q 今回の講習に参加した目的は、どの程度達成されましたか]

50%未満	だいたい50%	それ以上
0名(0%)	1名(5%)	21名(95%)

[Q 「それ以上」と答えた方は、達成度をお書きください]

60%	70%	75%	80%	90%	100%
1名(5%)	3名(14%)	1名(5%)	9名(43%)	4名(19%)	3名(14%)

[Q 今後、ご自身が体験学習を実施する場合、今回の手法を取り入れたいと思いますか]

はい	いいえ	わからない
21名(95%)	0名(0%)	1名(5%)

①事業アンケート「事業をふりかえって」より

(1) 今回の講習で学んだことを、今後どのように活かしていこうとお考えですか。

- ・現場で実践したい。
- ・自分の学級づくり、クラスの間関係づくりに役立てたい。(3)
- ・授業にも取り入れたい。
- ・人と関わる上で、様々な意見を言ったり、聞いたりすることは絶対に必要なことです。自分を高めること、仲間と共に過ごすこと等お互いに良い気持ちで過ごすことができるように心がけていきたい。
- ・指導力向上のために役立てていきたい。
- ・教科の体験学習サイクルをまわしていきたい。
- ・「協同学習」(どうやって高めあう集団をつくっていくのか?)
- ・体験を通すことの意義と必要性や仲間と活動することの楽しさを、自分の学級経営にかしたい。
- ・ふりかえりの手法を、学級や部活動において活かしたい。(2)
- ・体験学習の充実を図っていきたい。
- ・体育や特別活動の時間に体験学習サイクルを活用した授業をしたい。
- ・日々の実践にいかし、子どもが成長するように活用していきたい。
- ・職場のプログラムの一つに加えられるようにしたい。
- ・仲間づくりやスキルアップ研修に役立てたい。
- ・地域づくりに提案し、導入させていただきたい。
- ・企画する事業や通常の業務の中で場を促進させる手段として活用したい。
- ・他者の目線になって考えること、ファシリテーションの考え方をさらに深めたい。
- ・今までふりかえっただけで終わっていたことに気付いた。今後はふりかえりを活かす方法を子どもにも考えさせ、自分も考えていきたい。
- ・授業づくりに協同学習とPAを一緒に活用したい。

(2) 今後、ご自身が体験学習を実施する場合、今回の手法をどのように取り入れたいと思いますか。

- ・体験学習サイクルを意識して(3)
- ・アクティビティ(2)
- ・ふりかえり(2)
- ・プランニング
- ・体験を日常化する方法
- ・まだまとまっていない。今から考える。
- ・情報の共有
- ・一体感の醸成(2)
- ・試行錯誤を取り入れながら、目的に向けて進む
- ・生徒や集団の様子を見ながら
- ・アイスブレイク
- ・プログラムとして(2)
- ・授業など(やれる範囲で)
- ・子どもが喜ぶ活動
- ・チームワークを高めたいとき

- ・人間関係づくり
- ・ビーイング
- ・家庭
- ・自分自身に
- ・FVC（フルバリューコントラクト）
- ・すべての学校教育活動（特に教科、道徳、特別活動）
- ・4月の出会いに必ずアクティビティを実践してみる
- ・一つ一つの活動に対して、目的を明確に持った上で体験を提供する
- ・効果的な学びを提供できるようにしたい

（3）今回の講習で、特に書き留めておきたいこと（感想、印象、驚き、気づき、誰かの言葉…）がありましたらお書きください。

- ・講師の方、ありがとうございました。
- ・たくさんの気づきがあり、たくさんの学びがありました。
- ・体験学習サイクル
- ・自分自身や集団の目標、現状を具体的に設定すること、周りの先輩方からたくさん教えていただけたことが、本当にありがたかった。指導者でありながら、いつまでも学び手であることを意識していきたい。
- ・ファシリテーションについて、改めて確認することができました。この視点を大切にしたい、今後に活かしていきたいです。
- ・楽しむ気持ち → 学び
- ・一人では考えられない、思いつかないイメージや意見がある。
- ・エネルギーは思考の向く方向へ流れる。
- ・FVC, CBC
- ・人の支えって大切だとわかりました。補い合って生きていると思いました。
- ・活動を重ねるごとに「パーソナルスペース」が小さくなった。
- ・集団で感想が出ないときは、3～4人の少人数で話し合い、集団に戻すと良いことがわかった。
- ・今後もよろしくお願いします。
- ・とても満足できました。周りの人の励ましが元気につながりました。
- ・ミスをただ受け止めるだけでなく、なぜ？どうしてそうなったかが大切。
- ・花山スタッフの素晴らしいサポートの下、大変有意義な研修を受講する機会を得たことを大変嬉しく思います。ありがとうございます。
- ・「一人じゃできないから」
- ・関係性（信頼性）の構築が重要。
- ・皆さんポジティブだった。いろいろな個性があっっておもしろかった。
- ・「体験学習だからこそ、できることがある。」
- ・「自分の好きなこと、楽しいと思うことを子どもたちにも伝えたい。」

【課題】

- ・1回目の開催を年度当初は5月に予定していたが、講師の都合により6月第1週の開催となった。そのため学校行事等との兼ね合いもあり、教員の参加が少なくなってしまった。次年度も「学校教育に活かす」視点を重視した内容を検討しているの

で、教員の方々によりPRできる日程と広報の工夫を検討していく。

- ・指導者対象の事業ということもあり、事業名が堅苦しいことや長いことが参加者定員に達しない原因ではないかと考えられる。次年度に向けて事業名を変更し、関心のある方に直接訴える魅力的な事業づくりを目指していく。
- ・施設として研修支援団体（利用団体）の活動プログラムとしても、体験学習法の手法としてPAを提供しているが、今後効果検証のための調査を実施し、本事業にも反映してより効果的な事業の実施を目指していく。

